

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習指導Ⅱ Guidance in Fieldwork of Social work Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	相談援助実習指導Ⅰ単位取得者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
夏期休業中の見学・体験学習の振り返りを行う。課題を整理し、相談援助実習Ⅰの実習分野選定に活かす。実習事前学習（外部講師による講演、実習施設アセスメント等）を踏まえ、実習計画書の作成を行う。実習プログラムを理解する。				
授業の目標				
①実習を行う実習分野と施設・事業者・職種等に関する基本的な知識を確認できるようにする。 ②事前学習を踏まえ、問題意識や学習関心をもって実習計画書を作成することができるようにする。 ③自己紹介書の作成を通じ、自分の長所・短所、自分の強み、傾向など自己覚知できるようにする。				
授業の方法				
講義および演習。相談援助実習Ⅰの自己紹介書・実習計画書の作成指導。				
学習の成果（学習成果）				
①自己紹介書作成を通じて、自分自身に向き合い、自己覚知につなげることができる。 ②実習施設・機関の種別や他の施設・機関との違いを詳しく調べ、比較・分析できる。 ③実習計画書を設計することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスに沿って授業の流れの説明）／ボランティア報告会について／【課題1「現場体験学習報告書」提出】			
第2回目	ボランティア報告会			
第3回目	「実習生に求めること」：外部講師 社会福祉士 佐藤 敬子氏（社会福祉法人恵友会 桜花 相談支援専門員／実習指導者）【課題2「講演を聴いて～実習までにやるべきこと」第4回提出】			
第4回目	実習記録の書き方①、実習先アセスメント（実習施設・機関種別の概要、成り立ちなど）			
第5回目	自己紹介書の作成①			
第6回目	自己紹介書の作成②、実習プログラムについて、実習計画書の作成①			

第7回目	実習計画書の作成② 個人写真撮影	
第8回目	実習計画書の作成③	
第9回目	実習計画書の作成④	
第10回目	実習関係書類の準備、必要書類の説明、事前訪問について 【「自己紹介書」「実習計画書」の提出】	
第11回目	細菌検査の提出方法、出勤簿・実習記録の書き方②	
第12回目	相談援助実習契約について、実習記録の書き方③	
第13回目	相談援助実習学内報告会への参加【課題3「実習報告会の感想レポート」】	
第14回目	実習報告書の書き方について、実習の進め方、【課題4「実習先アセスメント」】	
第15回目	事前訪問について、巡回指導、提出物の扱い等、お礼状の書き方	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問にくること。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	45%	以下の点で評価する。遅刻早退なく、授業に必要な教材をそろえ、意欲的に参加していること。予習、課題等を期日までに持参し、課題を授業中に解消するよう心がけていること。
レポート	45%	課題1～4を評価する。評価基準Sは、授業の内容を理解し、積極的に取り組んでいること。自分なりの観察・考察が書かれていること。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	10%	自己紹介書、実習計画書および作成過程を評価する。事前学習を踏まえ、自己のもつ課題と向き合い作成できたかどうか。積極的な学びがみられたか。期日厳守にて清書及びコピー各2枚が提出されること。
教科書と参考図書		
「ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習」日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター／中央法規 「社会福祉小六法」／ミネルヴァ書房		
履修上の留意点・ルール		
授業は必ず出席すること。やむを得ず欠席した場合は、内容をクラスメイト及び教員に確認し、書類や課題は次回授業までに作成しておくこと。授業内で諸連絡がたくさんあるため、メモをしっかりとること。		